**「適切支出」？…都議会１３日に集中審議**

報告書は２００８年以降に舛添氏の政治団体が支出した宿泊費１９件のうち、１３、１４年各１月に宿泊した千葉県木更津市のホテルなど６件を不適切とした。一方、那覇市、福岡市での宿泊３件は家族を同伴しても「不適切ではない」と判断した。

　このうち１１年１０月に福岡市のホテルに宿泊した際は家族と一緒に野球観戦をしている。報告書は「支援者」やその家族も一緒に観戦したとして「家族ぐるみの交流には意味がある」と記した。

　０９年８月の那覇市のリゾートホテル宿泊は、滞在目的が選挙応援で「候補者の家族との交流も想定され、公私混同とまでは言えない」と理解を示した。

　こうした見方に従えば、家族間の交流が際限なく政治活動とみなされる恐れがある。

　報告書によると、舛添氏の団体は１０年以降、掛け軸など書４１件、絵画１０６件の購入に政治資金を使った。

　毎日新聞は１２〜１４年に購入した書や絵画の領収書を入手した。ただし書きは、フランス留学経験のある画家の作品が「日仏交流史資料」、明治時代の書家の作品は「明治維新資料」など、機械的に当てはめたような記述が目立つ。

　１２年１０月と１１月には同じ日本人油絵画家の作品を購入しながら、ただし書きが「日仏関係史資料」「昭和史資料」と異なった。

　報告書は、舛添氏の「購入した絵画・版画の一部を都庁に展示し、要人との話題作りに活用している」との説明を「首肯できるものがある」とした。

　報告書は舛添氏の書道を「趣味と政治家としての実利・実益を兼ね備えている」と持ち上げた。

　１１年３月１２日に書道の作業服として中国・上海で購入した中国服２着について、舛添氏の「筆をスムーズに滑らせることができる」との説明を「説得力がある」と記す。　１０日の記者会見で舛添氏は改めて「中国のシルクのやつ（中国服）はここ（腕）が引っかからないので書きやすい」と強調した。

　報告書はそば打ちやピザ窯作り、金魚図鑑などの本を購入した点も「支援者にピザを振る舞い、政治家仲間とそばを打ちながら政治談義をしており、不適切とまでは言えない」などと理解を示す。

　今回の問題は趣味を政治活動に生かしたかどうかでなく、政治資金を使うのがいいかどうかで、報告書の見解には批判も出そうだ。

## 調査、２週間足らず

　調査は５月２５日に始まり、５日に報告書がまとまった。担当した元東京地検特捜部副部長の佐々木善三弁護士は６日の記者会見で、依頼を引き受けた経緯を「知人から話があり、舛添氏の秘書に話を聞いたところ、報道と事実が違うところもあるということで、理解してもらった方がいいと思った」と説明した。報酬については「お答えしない」と語った。

　舛添氏は５月２０日の定例記者会見で調査に関し「当然、私の方の費用でやる」と述べている。２７日の会見では自費で依頼した時点で第三者にならないのではないかと問われ「厳正な目で調査をというお願いで、自分を弁護してくれという依頼ではない」と強調した。

　調査は舛添氏を含む関係者のヒアリングや資料提出を受けて行ったという。佐々木弁護士は、舛添氏が千葉県木更津市のホテルで家族と宿泊中に会ったという出版会社社長については「ヒアリングできなかったが、周囲の方からヒアリングして、裏付けるような事実関係を確認できた」と話した。「知事が言っていて、裏付けがあれば疑うことはできない」とも述べた。

## ◇政治資金からの支出に関する舛添氏の説明と調査報告書の見解◇

・ピザ窯、そば打ちなどに関する本の購入

＜舛添氏＞ピザを焼いて支援者らに振る舞いながら政治課題の意見を聞いたり、そばを打ちながら政治談義をしたりした

＜報告書＞説明に相応の合理性があるが、個人的趣味の色彩が強い。不適切とまでは言えないが、政治資金支出は避けるべきだった

・絵画・版画など美術品の購入

＜舛添氏＞知識や理解を深める必要性があり購入した美術品は政治活動に活用している

＜報告書＞説明に首肯できるものはあるが、点数があまりに多すぎ、合計額も多すぎ、不適切というほかない

・書の購入

＜報告書＞舛添氏の書道は趣味と政治家としての実利・実益を兼ね備えている。点数、金額とも多すぎる感は否めないが、自己の書道の参考とする意味も有し、政治活動と関わりがあり不適切とまでは言えない

・２０１１年３月１２日、上海で約１４万円で物品購入

＜舛添氏＞書道の際に着ると筆をスムーズに滑らせることができるため、シルクの中国服２着などを買った

＜報告書＞説明は具体的で説得力がある。舛添氏の保管する中国服に墨汁の汚れを確認できた。書道は政治活動に役立っており、購入は不適切とは言えない